



-Anti-

狂裂

もはや Antique の類、かつてはレコードなどといふ、塩化ビニールに黒色を出すためのカーボンブラックを混ぜた薄い円盤、塀のメデイアがあつて、それを収納する専用のジャケットがあり、其の多くは紙製で、意匠を凝らした写真や絵等が刷られてゐたが、彼の見掛を喩へるにあたつて、ジャケット写真を言ふと、あゝなるほどと思ふ方が多いゆゑ、頻繁に曰く。たとへば、The Beatles の名盤『Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band』又は The Rolling Stones の『Their Satanic Majesties Request』など。

天易真分のその奇體奇天烈な風体は、さういふサイケデリックなものであつた。

恐らく、初めて彼を見た人は、誰もが呆れて上から下まで二度、三度眺めるであらう。鍰の広いウィザード・ハットは黒きフェルト地の尖つた細い三角錐の山高で、山が斃れてゐた。手入れをしているふうはなく、磨れテカつてゐる。五年くらい、毎日、使つてゐるであらう。そんなことは一向気にしてゐるふうもなく、すました顔で片眼鏡を細く高い鼻梁に掛けてゐた。

長い髪は帽子の下からあふれる瀧のやうに、尻下まで波打ち落ち、頬髭や口髭や顎髭が臍下まで垂れてゐる。毛質は艶がなく、乾いてパサパサしてゐた。黒よりも灰色のやうに感じられるのであつた。

膝下丈のミリタリー・コートの生地は艶やかな繻子、パステルのやうな発色の水色であつた。胸にきらきら燦めく金の糸の紐飾り、肩に房飾りがある。刺繍の入つた大きな襟は顎を隠すように立ち上がつて折れてゐた。ピンで留めしカフスには、レースが奢られてゐる。

弩派手なペイズリー柄の真紅の絹タイを、マフのやう、首にぐるぐる巻きにしてフランス革命後に流行つたスタイルに結び、いつも海泡石のキャラバッシュ・パイプを咥へてゐた。

マッチ棒のやうな脚に Levi Strauss & Co. のスキニーな十六オンス・デニムのジーンズを穿く。その裾は形崩れした蛇の皮のロング・ブーツに収められてゐた。

緩み崩れたそのブーツは本来、筒状で、膝下までも届くものであるが、その半分くらいしか至らず、だらしなく垂れ、ルーズ・ソックスみたいに見えなくもないが、そんな訳がない。

なぜ、今さらさやうな Material をいつら言ふかといへば、乾涸びし花の乾燥せるさまを見るうち、意識が意思に閑はらず遷移し、つむぐからである。さう。

ラベンダーであつたときの影を遺すドライ・フラワーを眺め、頬杖を突き、ふつと

想ふ、是、人にあらば木乃伊、と。

花々ゆゑ、梁やら、壁の飾り板やら、さかさ吊りの憂き目に遭ふ。人にあらばやすらかに柩にて、世のすべてから解き放たれてゐやうものを、などと謔たはぶれが蒼穹の一片の雲のやう、脳裡を過ぎりて心を翳す。くちもとを動かすことなく、くすり笑ふ。

萬物齊同（すべてはひとしくおなじ）といふが、とても。

いや、違ふ。花木乃伊はなみいさまたちも、とてもおしずかに、時止まりしやう、微動すらないおしとやか。静寂の死に顔。

さやうなさまを見るうち、彼の Blues Harp の一小節を思ひ出し、音の起想力に因つて、観たこともないやうな場面を、内在に現象させる。洞窟の壁に映る Movie のやうに。

『ニューヨーク New York. ハーレム Harlem. 古い赤煉瓦のアパート。黒い鉄製の外附階段。半地下の部屋の割れた曇りガラスの窓、寂しい歩道。手摺のある玄関前の石段。伍段あり、黒人が坐っている。手に小さなブルースハープ Blues Harp. リードの震えのひずみは、半音下がった、即物的な、かん高いブリキ音と、ぶち壊れたチューバのような低い金属の音の雑ざったやうな、不安定な、揺らぐ音程。乾き切った、深みやまろみや潤いのない、輪郭のきつい、存在のくつきりしたサウンド Sound. 真夏の昼下がりの、気怠い静寂を裂帛する、古い蛇口の栓を捻るやうな、響き』

金属のリードの震へは、ブリキ製の空き缶のやう、蓋が反れ上がつて、棄て置かれてゐた。

無言、無表情。存在は ト・メー・エオン “あらぬ to mē öv” ですらない。其の甚深。神聖ですらある。

彝之イタルの綴りし一文。

『LABEL ※スル、レットル、ベル、レタル、紋字 鯉 ※軟鋼の基盤、銅の薄膜を鍍したるもの BLIK ※軟鋼の基盤、銅の薄膜を鍍したるもの 製 賞味期限四九八・二二八 年 かんき 截りの刃 やみば を用ゐる ZAKZAK 截り裂き牽き剥ぐ蓋面 は の ZUDAZUDA もぐやな截り口 くち めがら捲れ上り あが て頸刎れ顛さ くびき 磔の骸が如く疚き仰け反り逸れ販り は 剥ぎがまま。からっぽ。子と存。存在が炸裂である。存在とふ炸裂である。平常とふは狂絶空がゆる自在奔放をも自裂する自在奔放、狂奔裂である。Blues Harp が歪みのごとく。不自由にさへあり。（『遺されなかった

古文書』）

けふがめいにち、霜降月廿日。それゆゑにかくも想ひが鬱勃するか。

今し、考ふに、天易真吟の場を弁へぬあの唐突なハモニカも、狂炸死への反歌。

八年まへのこの日、彝之イタルは聖なる眞神の御山の頂きにある古代祭祀の譬代の上

にて、ガソリンを被り、炎燃え裂けつつ、飛翔した。自殺ではなく、狂裂なるパンク・ロ
ッカー、彝之イタルの畢竟究竟窮極の炸裂の Performance であつた。當時、若干
十七歳といふ天^{わか}さであつた。

一切の妥協なき狂奔裂。彼が最後に書き残せしは短き長歌。

透きとほる Blue Black 明^{あけ}未^{なら}ぬ寅^{とら}一[※]つ刻^{とき} 靈^{りょう}玄^{げん}の狭^さ霧^{ぎり}浮^う遊^すふ 白^{はく}黎^{れい}の氣^けを孕^はみ
つもあを^蒼きときこころやすらぐ